

式 辞

校庭の木々の芽も膨らみ、春の訪れが感じられる今日、ここに高砂市立伊保小学校卒業証書授与式を迎えることができました。

本校の六か年の課程を修了し、本日、巣立ち行く九十八名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、一人一人に卒業証書を手渡しました。担任の先生が心を込めて呼ぶ名前にしっかり返事して、卒業証書を受け取る姿は、たいへん立派でした。入学してから六年間、勉強や運動に励み、心も身体も大きく成長し、今、旅立とうとしています。私が伊保小学校で皆さんと過ごしたのは、一年間でしたが、明るく、いきいき活動する姿をたくさん見ることができました。

一泊二日の奈良・京都への修学旅行。大仏殿の見学や太秦映画村での班別行動、八つ橋づくり体験など充実した二日間を過ごしました。旅館の部屋で友達と一緒に過ごし、語り合ったことが、六年間の一番の思い出だと話してくれる人も多かったです。

運動会ではリーダーシップを存分に発揮してくれました。応援合戦やそれぞれの演技とともに、準備や後片付けに自ら進んで取り組んでいる姿に感心しました。

そして伊保っ子コンサート、心をついにし、美しいハーモニーを響かせ、さすが最上級生と誰もが思えるすばらしい演奏で、感動を与えてくれました。

日々の生活でも、真剣な授業態度、朝会での静かに聞く姿勢も増えてきて、学校生活の落ち着きを取り戻し、まさに「伊保の奇跡」を見せてくれるようでした。

皆さんは、小学校六年間はどうか？私は、皆さんと出会えて本当に良かったです。

ここで、皆さんの巣立ちに際し、二つの言葉を送りたいと思います。

先月二月十一日に、八十四年の人生を全うされた野村克也監督の言葉です。「戦後初の三冠王」「月見草」「生涯一捕手」「ID 野球」「野村再生工場」など多くの名フレーズに彩られた野球人生、南海、ヤクルト、阪神、楽天などで監督を務め、輝かしい戦績を残された野村克也監督ですが、数々の名言も残されています。

一つ目は、「若いときに流さなかった汗は、年をとったときの涙となる」という言葉です。可能性が満ち溢れている若いときに、まず己を知り、いまの自分に何が足りないのか、どこが弱いのか、ということをしごく認識することが極めて重要です。自分の課題について感知するセンスを日々磨き、課題がわかったら、それを補い、克服するための方法を必死に考え、努力し、汗を流す、ということです。

「若いときに流さなかった汗は、年をとったときの涙となる」。「ボヤキ」「辛口」で有名な野村監督ならではの、若い人への愛情のこもった言葉だと思います。

二つ目は、「親孝行は大成の絶対条件である」という言葉です。大成とは、完全に成し遂げる、ということです。自分を生んでくれた親に孝行しようという気持ちがない人間が、満足な仕事をできるはずがない、とも言っています。女手一つで育てられた野村監督は、「私の人生で、一番誇れるものといったら母」、とも言っています。

「親孝行は大成の絶対条件である」。育ててくださった人への感謝の気持ちを忘れず、これからも自分磨きに努めてほしいと思います。

「努力」と「感謝」、この二つが、これからも自分を高めていく両輪だと考えます。

終わりにになりましたが、保護者の皆さまに一言お祝いとお礼を申し上げます。本日は、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。

愛情を持って育ててこられたお子様を、六年間お預かりし、微力ではありますが、私たち教職員が、子どもたちと成長を共にできたことを本当にうれしく思っています。今日まで、本校の教育活動にご理解とご協力いただきましたことに、厚くお礼申し上げます。

いつもは、最後の思い出をつくるこの時期、例年とは異なった三月・そして卒業式になりましたが、子どもたちが伊保小学校・令和最初の卒業生として、これからも、「かしこく」「つよく」「うつくしく」ありつづけるよう、誇りと自覚を持って力強く進んでいくよう、皆さまと共に見守ってまいりたいと思います。

伊保小学校は、これからも卒業生を応援し、成長を見守る「心のふるさと」です。

卒業生の皆さんが、これからも元気で、いきいきと中学校生活を送ってくれることを願って、式辞といたします。

令和二年 三月二十三日

兵庫県高砂市立伊保小学校長 井上 和浩